



会 長 古内 一二  
副会長 山口 徹  
幹 事 今野 義也

= 会長指針 =  
お互いを理解しあおう

．．． 例 会 記 録 ．．．

月第週例会 2023年 2月 2日 (木)

ソング : 君が代・4つのテスト ボックス : 24,000円 (報告者 新沼達央会員)  
本日出席率 : 66.67% 前回修正後86.11% (メンバー9名) (報告者 新沼福三会員)



高木久子会員に次年度地区公共イメージ向上・DEI 推進委員の委嘱状



濱守会員3度目の PHF

★ 会長の時間 : 古内一二



突然ですが、私には子供が3人おりまして、長女は仙台で保育士をしています。長男は稼業に就いていて、次女は今盛岡に住んでいます。観光協会にて椿娘をさせていただいたときは、齊藤さんには大変お世話になりました。

そして今孫がそれぞれにいまして、上は小学校1年から、下が1歳まで5人います。自分の子供の子育ては妻にまかせっきりで、ほとんど見たことはありませんでしたが、孫はかわいいのでよく一緒に遊んでいます。自分の子供たちが保育園でのお遊戯会や発表会などで、行った歌や童話を今あらためて孫たちに読み聞かせています。「三匹のやぎのがらがらどん」や「北風小僧の貫太郎」

などは、皆さんもご存じだと思いますが、童話や民話、昔話は解釈の仕方によっては、かなり奥深く、考えさせられることもあります。そんな中、面白いインドの民話がありますので今日はこの話を紹介して会長の時間としたいと思います。

その話の内容は「あるところに99頭の牛を持つ大金持ちが住んでいました。彼はあと1頭手に入れ100頭にしたいと考えておりました。そしてある日、わざとぼろぼろな服を着て、遠くに住んでいる幼馴染の友人を訪ね、友人に「何とか助けてくれ、俺はもう明日子供たちに食べさせる物もないんだ。」と切々と訴えました。これを聞いた幼馴染はびっくりして「君がそんな状態だとは知らなかった、自分も貧しいが、食べてゆくことぐらいは出来るから、この牛を持って行ってくれ。」とたった1頭しかない牛を差し出しました。こうしてまんまと100頭の牛を手に入れた金持ちは家に帰り、その晩満足に満ちて眠りにつきました。一方、なけなしの牛を友人に差し出した貧乏の友人も「今日はとても良いことをした、これで人助けができた。」としみじみ喜んで眠りについたのでした。」と言う話です。人にはそれぞれ喜びの価値観が有りますが、同じ喜びでもかなり違います。自分が他人に幸せを与える喜びこそがロータリー活動の基本だと思います。今後このことを忘れず、仕事にも生かしていきたいと思っています。

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

1 ガバナー事務所より

- ・ 2月のロータリーレート1ドル130円と連絡あり
- ・ 2023-24年度会長エレクト研修セミナーの案内が届いています。

日 時 3月5日(日) 13:00~17:00 場 所 ホテルメトロポリタン仙台 3F「曙」  
締め切 2月24日 登録料 10,000円

2 盛岡南 RC より創立50周年記念式典・祝賀会の案内が届いています。

日 時 4月23日(日) 14時~ 場 所 盛岡グランドホテル  
登録料 15,000円 締め切 3月17日

3 来週の例会に短期留学派遣生の佐々木煌介君が先生と共に挨拶に来られます。

◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆

★ 高木久子青少年奉仕委員長

大船渡東高校 IAC 3年生を送る会を計画しておりましたが、コロナ等の事情により学校側としては3年生のみで解散会を行うと連絡がありました。2月17日(金) 会長と新沼達央 IA 小委員長と共に3年生9名に名刺入れをお届けしてきます。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

米山アワー : 水野賢一米山委員卓話



今朝もかなり冷え込み日陰は路面が凍結し、車も足元も滑りましたがスピーチは滑らない様にしたいと思います。今回、米山記念奨学会についてスピーチする為に少しは知識をとロータリーの友などを読んでみましたら、自分が以前から疑問に思っていた事に答えが出てくる様な投稿がありましたので、紹介しながらスピーチを進めたいと思います。

ロータリー米山記念奨学会は、米山梅吉氏が生前、学業に優れているが経済的に困窮した東南アジアや日本の若者を援助されていた功績を記念し、1952年東京ロータリクラブが米山基金構想したのが始まりで、その背景には二度と戦争の悲劇を繰り返さない“平和日本”を世界に伝え、彼らの母国と日本との平和の懸け橋になってもらいたいという、戦後のロータリアンたちの願いもあった大変有意義な事業です。

1967年に財団法人化、2012年に公益財団法人化されました。当初は東南アジアからの留学生で、経済的に困窮した方を対象とする奨学金でしたが、2006年に制度の改変が行われた際「将来、日本と世界とを結ぶ『懸け橋』となって国際社会で活躍し、ロータリー活動の良き理解者となる人材を育成する」というように奨学会の目的がさだめられ、結果、学業に優れた人材であれば経済的に困窮しているか否かを問わない質を重視した奨学金制度に変わり、目的にかなう人材であれば、恵まれた環境にある留学生も選考試験に合格できる様になっています。

私見ですが、現地採用奨学金も設置されてはいますが、いま一度設立の原点に戻り奨学生の選考基準を再考するべきとおもいます。

また、奨学生の対象は外国人留学生と、1967年財団の設立趣意書に定められており、貧しい日本人は対

象にならないそうですが、米山梅吉氏は20歳でアメリカに留学し、8年間学び、帰国後周知の通り数々の偉業をなしとげられた。その基礎となったのは、日本の若者としてアメリカで学び、グローバルな人材となったからだと思います。

2022年7月現在129の国からの全奨学生数898人の内、中国375人 韓国90人、台湾38人、ベトナム140人、マレーシア55人などアジア州の奨学生の約93.5%がアジア州の奨学生です、中国の奨学生が多いのは、外国人留学生の46.6%が中国人ですので多くはなるとは思います。奨学会では「推薦者は1カ国に偏らないように」など要望を出し、選考過程でも国籍バランスや中国国内の出身地域が多様になるよう配慮をしているようですが、やはり外国人留学生に加え、日本人の若者を奨学生に選ぶことも必要ではないかと私は思います。

普通寄付金額全国平均4,920円に、予算の都合も有り西クラブはまだまだ全国平均にとどきませんが、特別寄付金は個人、法人、からの任意寄付で金額に決まりはありません。

ロータリー米山記念奨学事業の趣旨を十分に理解して頂き、ご寄付をお願い致します。